

第4学年2組 音楽科指導案

指導者 鶴岡 瑠璃子

1. 題材名 「せりつが重なり合うおもしろさを感じとろう」
- 教材名 ○「子どもの世界」 リチャードシャーマン/ロバートシャーマン 作曲
小野崎 孝輔 日本語訳
- 「アルルの女」より「ファランドール」 ビゼー作曲
- 「パレード ホッポー」 高木あきこ作詞/平吉毅州作曲

2. 題材について

(1) 題材観

本題材は、学習指導要領

A表現(1) 歌唱イ「歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。」

ウ「呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない声で歌うこと。」

エ「互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。」

B鑑賞(1) イ「音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴くこと。」

〔共通事項 ア(ア) 旋律・音の重なり・音色・強弱・速度(イ) 問いと答え・反復〕

に関する内容である。

子どもたちを見ていると、3年生の前半に比べ友達同士で聴き合ったり、教え合ったりするなど、友達とかかわり合いをもって活動することを好み、楽しむようになってきていることがわかる。また、そうした活動により、自分達の演奏を客観的に捉える力も少しずつ身につけてきており、「こんなところはよくできたね。」「もっと、こうするとすてきになると思うよ」など、それぞれの意見を出し合い、互いの力を伸ばそうとする姿も見られるようになってきた。

そうした他とのかかわり合いをもてるようになった中学年期において、旋律と旋律を重ね合わせ、みんなで一つの音楽をつくり上げていくという新たな面白さに出会う学習を行い、これから取り組む、合唱や合奏への意欲を育てていきたいと考えた。

そこで、本題材では、歌唱・鑑賞の両面から、2つの異なる旋律を重ねることで新たな響きが生まれる面白さを感じ取らせたいと考えた。また、それだけでなく、「問いと答え」「反復」などの音楽の仕組みを生かした旋律と旋律のかかわり合いや、「旋律の特徴」「音の重なり」「強弱・速度の変化」などの音楽を特徴付ける要素とのかかわり合いも相まって音楽を一層面白いものに行っていることにも気付かせていきたい。そうしたことへの気付きは、表現の際、単に2つの旋律を歌い合わせるという活動に留まらず、それぞれの旋律の特徴を生かしながらより豊かな表現をするためにはどうしたらよいかという工夫につながっていくものと捉えている。友達と旋律を重ねつくっていく音楽がより豊かな表現となることを期待している。

(2) 児童の実態 (男子 16 人 女子 19 人 計 35 人)

本学級の子どもたちは、明るく素直である。また、音楽に対しても高い関心・意欲をもっており、歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞のどの分野の学習にも一生懸命取り組んでいる。

昨年、児童はこの題材につながる「音の重なりを感じ取ろう」の学習において、二つの異なる旋律を合わせて歌う学習（教材曲「歌おう 声高く」）と、歌とリコーダーの旋律を合わせて演奏する学習（教材曲「あの雲のように」）に取り組んだ。その際、単旋律であれば正しい音程できれいな声を心がけて歌うことができた。しかし、二つの旋律を合わせると音程が不安定になり、相手の歌声やリコーダーにつられまいとして、必要以上に大きな声になる傾向がみられ、旋律の重なり合う美しさを感じ取って演奏したり、合わせることを楽しんだりするまでには至らなかった。

鑑賞の学習では、ビゼー作曲の「かね」を学習した。その際に楽曲が、 $\boxed{\text{ア}} \rightarrow \boxed{\text{イ}} \rightarrow \boxed{\text{ア}}$ の形式で、できていることについては、多くの児童が聴き取ることができたが、二つの旋律が重なって出来ている音楽の面白さを感じ取ることができた児童は半分程度であった。

表現においても、鑑賞においても、まだまだ、旋律と旋律を合わせることで生まれる響きの面白さや、楽しさを感じるには至っていない。

また、「かね」の鑑賞に限らず、他の曲を鑑賞したときも、その楽曲に対して漠然とした感じ方はできるものの、「その音楽の面白さはどこにあるのか」「なぜ楽しい気分になるのか」など、理由に気付ける子は少ない。そのため、感想が「元気な音楽だった」「やさしい気分になった」などの一文で終わってしまうが多かった。

こうした実態から、この題材では鑑賞で、2つの旋律の特徴を感じ取らせたり、音楽を特徴付ける要素や音楽の仕組みのかかわりが面白さを生み出していることにも気付かせたりして、表現に生かしていくようにさせたい。

※なお、本題材に関わる実態については別紙1参照

(3) 指導観

「子どもの世界」は、親しみやすく、誰もがよく知っている楽曲である。楽曲が $\boxed{\text{ア}}$ と $\boxed{\text{イ}}$ の二つの旋律からできており、パートナーソングのようにそれらを重ねて歌うこともできる。子ども達はこの旋律をよく知っているので、2つの旋律を重ねて歌っても、旋律が不安定になりにくく安心して歌える。相手の旋律を聴きながら、歌い合わせる活動の楽しさを感じ取りやすい楽曲と捉え、題材の最初に扱うことにした。

また、2つのパートの響きをあわせるためには、発音や声の出し方、音量のバランスに気をつけて歌うという技能面の指導も必要となってくる。教師が「こうして歌いなさい」と言うのではなく、相手パートの歌声をよく聴き、合わせるためにはどのような歌声で歌ったらよいかを自分たち自身で発見させていくようにしたいと考えている。

「ファランドール」は「王の行進」と「馬のダンス」という2つの対照的な旋律で構成されている楽曲である。それぞれの旋律の特徴を聴き取るとともに、音楽の仕組み（2つの旋律のかかわり合いや重なり方）や、音楽を特徴付ける要素（強弱・速度の変化など）を聴き取り、音楽全体の流れや面白さを感じ取らせるようにしていく。

具体的には、2つの旋律を口ずさんだり、旋律にあわせて体を動かしたりして旋律の特徴を捉える。また、2つの旋律のかかり合いと重なりを理解させるため、2つの旋律を表すカードや構造図を活用し視覚的に音楽の構造を捉えられるようにする。さらに、聴き深める中で強弱や速度の変化が音楽を一層面白いものに行っていることを発見させていくようにする。

また、学習の最後にお家の人に「この音楽はこんなところが面白かったよ。」と手紙を書き、楽曲の紹介をする。子どもが書く手紙の中に、音楽の仕組みや音楽を特徴付ける要素のかかり合いが面白さをつくりだしていることに気付いた文が多く書かれるように導きたい。

「パレードホッホー」では、「ファランドール」で学んだことを生かし、対照的な二つの旋律の特徴を捉えその特徴を生かして歌ったり、旋律を重ねたときの響きや音量のバランス、強弱や速度の工夫についても意見を出し合ったりし、自分達らしい工夫をして表現できるようにしていきたい。友達と「私はこんなふうに歌いたい。」という思いや意図を伝え合う時間を十分に確保し、みんなで心と声を合わせて歌えるようにしたい。

3 題材の目標

- ・2つの旋律の特徴を感じ取りながら、音楽の仕組みや音楽を特徴付ける要素に気付いて聴いたり、それぞれの旋律の特徴を生かしてどのように演奏したいか、思いや意図をもって表現したりする。

4 題材の評価規準

ア. 音楽への 関心・意欲・態度	イ. 音楽表現の創意工夫	ウ. 音楽表現の技能	エ. 鑑賞の能力
旋律の特徴や重なり、音楽の仕組みに関心をもって、友達と歌い合わせたり、鑑賞したりする学習に進んで取り組もうとしている。	旋律の特徴や音楽の仕組みを聴き取り、それらの働きが生み出す面白さを感じ取りながら、曲想にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えをもっている。	呼吸及び発音の仕方に気をつけて、曲想にふさわしい自然で無理のない歌声で、友達の歌声を聴きながら、自分のパートを歌っている。	旋律の特徴や音の重なり・音色・強弱・速度・問いと答え・反復などを聴き取り、それらの働きが生み出す面白さを感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴いている。

5. 題材の指導計画及び評価計画（6時間扱い）

次	○学習内容 ・主な学習活動	学習活動における 具体的評価規準	共通事項
第1次 2つの旋律が重なり合うおもしろさを感じ取って歌う。			
1 時	<ul style="list-style-type: none"> ○「子どもの世界」を斉唱する。 <ul style="list-style-type: none"> ・姿勢や発音、歌い方に気を付けて歌う。 ○アとイの二つの旋律を重ねて歌う面白さを感じ取る。 <ul style="list-style-type: none"> ・パートに分かれ、合わせて歌う。 ・歌声コーディネーターがみんなの歌を聴き、発音や歌い方、音量のバランスなどをアドバイスし、歌い方を工夫していく。 ・歌声が合わさったときの響きを聴き、感じたことを述べ合う。 	<p>ウ①呼吸や発音の仕方に気をつけて自然で無理のない声で歌っている。</p> <p>ア①旋律の重なりや音楽の仕組みに関心をもち、友達の歌声を聴きながら、自分の歌声を合わせて歌う学習に、進んで取り組もうとしている。</p>	<p>音の重なり 音色</p>
第2次 2つの旋律の特徴を感じ取りながら、音楽の仕組みや音楽を特徴づけている要素に気を付けて聴く。			
2 時	<ul style="list-style-type: none"> ○「ファランドール」の音楽の特徴に関心をもちて聴く。 <ul style="list-style-type: none"> ・聴き取ったこと、感じ取ったことを自由に述べ合う。 ・「子どもの世界」を手がかりに、音楽の仕組みに面白さにあることに気付く。 ・2つの旋律（王の行進・馬のダンス）がもとになっている楽曲であることを知る。 ○2つの旋律の特徴を感じ取る。 <ul style="list-style-type: none"> ・口ずさむ、旋律に合わせて体を動かす等をして感じ取り、言葉に表す。 	<p>ア②2つの旋律の特徴や音楽の仕組みに興味・関心をもち、進んで聴こうとしている。</p> <p>エ①旋律を口ずさんだり、体を動かしたりし、2つの旋律の特徴を感じ取って聴いている。</p>	<p>旋律</p>
3 時 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ○楽曲がどんな仕組みでできているのかを聴き取る。 <ul style="list-style-type: none"> ・旋律に合わせ王のカードと馬のカードを出しながら聴き、音楽全体の構造をとらえる。 ・音楽の構造図をつくり、音楽の仕組みを視覚で捉える。 ・音色・強弱や速度の変化など気付いたことを構造図に記入する。 ○音楽を聴いて自分の気付いたことを発表し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・友達の発表を聞いて、自分では気付かなかった聴き方があることに気付く。 	<p>エ②旋律の特徴や音の重なり・音色・強弱・速度・問いと答え・反復を聴き取り、それらの働きがかかわり合いながら生み出す面白さを感じ取り、楽曲の構造に気付いて聴いている。</p>	<p>問いと答え 反復 強弱 速度 音色</p>
4 時	<ul style="list-style-type: none"> ○「ファランドール」の面白さを紹介する。 <ul style="list-style-type: none"> ・構造図を見ながら音楽を聴き、これまで学んだことを確認する。 ・この楽曲を聴いて面白いと思ったことを文に表す。 ・手紙を発表する。 ○全体を通して味わって聴く。 	<p>エ③旋律の特徴や音の重なり・音色・強弱・速度・問いと答え・反復を聴きかかわり合いから感じ取ったことを、文で表して、楽曲の特徴に気付いて楽曲全体を聴いている。</p>	

第3次 2つの旋律の特徴を生かして、どのように歌いたいか思いや意図をもって歌い、2つの旋律が重なり合う面白さを味わう。			
5時	<p>○範唱を聴き、アとイの旋律の特徴や音楽の仕組みに気付く。</p> <p>・アとイの旋律を口ずさんだり、楽譜を比較したりして、アとイの違いを感じ取る。</p> <p>・音楽の仕組みを、図式化し旋律を重ねて歌う部分があることに気付く。</p> <p>○アとイの旋律の特徴を生かせるよう歌い方を工夫する。</p> <p>・友達同士で歌い方を聴き合い、意見を述べる。</p>	<p>ア③旋律の特徴や重なり、音楽の仕組みに関心をもって、友達と歌い合わせる学習に進んで取り組んでいる。</p> <p>イ①アとイの旋律の特徴の違いを感じ取って、それぞれの特徴を生かすためどのように歌うか、自分の考えをもっている。</p>	<p>音の重なり</p> <p>旋律</p> <p>問いと答え</p>
6時	<p>○互いの声を聴き合いながら、旋律が重なり合う面白さを味わって歌う。</p> <p>・クラス全体をアとイに分け、歌い合わせる。</p> <p>・6人ぐらいのグループをつくり、声の大きさやバランスに気を付けて歌い合わせる練習をする。</p> <p>・グループごとに発表し、表現を聴き合う。</p>	<p>ウ②声の大きさやバランスに気を付けて、友達の歌声を聴きながら、自分のパートを歌っている。</p>	<p>↓</p> <p>↓</p> <p>↓</p>

6 本時の学習（3／6）

（1）本時の目標

2つの旋律の特徴を感じ取りながら音楽を形づくっている要素（問いと答え・反復・旋律の重なり・音色・強弱や速度の変化など）に気付いて聴く。

（2）視点とのかかわり

《視点3》 評価を生かした指導をするために

評価とは指導の最後には成果をはかるためだけに行うものではなく、授業の要となるポイントで子どもの学習状況を把握し、その子どもに本時の目標を達成させるために、教師がどのような支援を行っていったらよいかを考え軌道修正をするためにあるものと捉えている。

本時の評価規準

エ② 旋律の特徴や音の重なり・音色・強弱・速度・問いと答え・反復を聴き取り、それらの働きがかかわり合いながら生み出す面白さを感じ取り、楽曲の構造に気付いて聴いている。
(ワークシートの記述、発言の内容)

こうした姿に子どもを高めるために、本時の中で2回子どもの学習状況を把握する。その時点で手立てが必要と思われる子どもへの具体的な支援の仕方は、指導案中に※1、※2というように示した。支援が必要な子に対して細かく支援を行うことで、少しずつの達成感を味わわせながら本時の目標に近づけていけるようにしたい。

(3) 展開

学習内容と学習活動	教師のかかわり	備考
<p>1. 「子どもの世界」を歌う ・お互いの歌声を聴きながら歌い合わせる。</p> <p>2. 前時の学習を思い出す。 ・2つの旋律（王の行進・馬のダンス）が出てくる。 ・それぞれの旋律を口ずさみ、特徴を確認する。</p> <p>3. 本時の目標を示す。</p>	<p>○歌声のバランスをよく聴き、アドバイスをする。</p> <p>○前時に学んだことが何かを問いかける。</p> <p>○子どもの発言を板書し既習の内容を明らかにする。</p>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">「ファランドール」のおもしろさのひみつを見つけよう。</div>		
<p>4. 楽曲の構造（問いと答え・反復・旋律の重なり）を聴き取る。</p> <p>♪それぞれの旋律（王、馬）を示すカードを挙げながら楽曲を聴く。</p> <p>♪もう一度楽曲を聴き、ワークシートに丸を付けながら、音楽の構造図を完成させる。</p> <p>旋律を小さく口ずさみながら聴く。</p> <p>・黒板の構造図と自分の図を照らし合わせ、音楽の全体の流れを視覚で確認する。</p>	<p>○ワークシートの記入の仕方を説明する。</p> <p>観察→（聴き取れていない子をチェック）</p> <p>※1</p> <p>○楽曲を聴きながら、一緒にカードを挙げる。</p> <p>○みんなと一緒に旋律を口ずさんで、楽曲を聴くように促す。教師の示す構造図をよく見ながら聴き、丸を付けるよう促す。</p> <p>○教師も旋律の現れる順に黒板に王と馬の絵を貼り、音楽の構造図を完成させる。</p> <p style="text-align: center;">☆問いと答え・反復・音の重なり</p> <p>○音楽の流れを言葉でも確認し、音楽を面白くしている要素にも気付くように働きかける。</p>	<p>カード （王・馬）</p> <p>ワークシート 鉛筆</p> <p>王と馬の絵</p>

<p>5. ♪さらにもう一度楽曲を聴き、他にも音楽を面白くしている要素を聴き取る。 (速度・強弱の変化、音色等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構造図の中に自分が感じた音楽を面白くしている要素を書き込んでいく。 <p>6. 気付いた面白さを発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が見つけたひみつを発表する。 ・友達の発表を聴き、面白さをうみだすひみつがたくさんあることに気付く。 ・音楽の仕組みや音楽を特徴付ける要素が絡み合っって音楽の面白さが生まれることに気付く。 	<p>観察→(書けない子をチェック)</p> <p>※2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近くに行き、音楽が変化したところで、構造図のどこの部分に当たるのかを示す。 ・強弱や速度を表す言葉のカードを準備しておき、それを使って構造図を完成させるようにする。 ・子どもの手などに触れ、音楽に合わせて指を動かす等して音楽の変化が感じ取れるようにする。 <p>☆強弱・速度・音色</p> <p>○子どもの気付きを取り上げ黒板の構造図の中に記入していく。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>エ 旋律の特徴や音の重なり・音色・強弱・速度・問いと答え・反復を聴き取り、それらの働きがかかわり合いながら生み出す面白さを感じ取り、楽曲の構造に気付いて聴いている。 (ワークシートの記述・発言の内容)</p> </div> <p>◇複数の要素に気付いている子(Aと判断した子)の生かし方 あまりみんなが気付いていない要素について発表してもらい、新たな聴き方に気付かせるようにする。</p> <p>◇Cと判断する子への手立て 他の児童が発表した後に、自然に「○○さんもそんなことに気付いた？」と言葉かけをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「うん」とうなずいたらほめる。 ・困った表情をしたら、最後に全体を通して聴くときに近くに行き、一緒に聴き、ここだよと合図をする。 	
--	--	--

<p>7. ♪全体を通して味わって聴く。</p>	<p>○黒板を見て、今日の学習を振り返りながらじっくり聴くように声かけをする。</p> <p>○次時の予告をする。</p> <p>「ファランドール」の面白さを手紙に表し、お家の人に紹介することを伝える。</p>	
--------------------------	---	--

別紙1 児童の実態（6月5日実施）

「山の魔王の宮殿にて」を鑑賞し、楽曲を特徴付けているもののうち、どの要素についてワークシートに書いているのかを集計した。結果は以下の通りであった。

<学習内容>

1. この曲を聴いて、感じたこと、気が付いたことを自由に書きましょう。
2. （この楽曲の題名、物語のあらすじを知り曲を聴く）感想を書きましょう。
3. 速さ、強弱、音色に気を付けて聴き、感想を書きましょう。

<結果>

速度について書けた児童	・・・	31人
強弱について書けた児童	・・・	28人
音色について書けた児童	・・・	22人
くり返しについて書けた児童	・・・	1人

速度については、大半の児童が感じ取ることができていた。「どんどん速くなって、ペールが追いつめられている感じがした。」「速くなって行って、最後のほうはドキドキした。」など曲想や自分の気持ちと結び付けて記述する児童も多くみられた。

強弱については、「あとの方がもりあがっていた。」「どんどん楽器が増えて、音が大きくなっていった。」など、子どもたちなりの言葉で強弱への気付きを記述していた。

音色については、「黒い感じの音」「暗い、こわい感じがする。」「がたがた、とげとげした感じの音」などさまざまな表現で記述していた。3年生の頃は「明るい」「暗い」「楽しい」などの表現ばかりだったので、成長が感じられた。本時でも、生き生きと子どもたちらしい言葉が発表されることを期待したい。

くり返しについては、ワークシートに書くポイントとして示さなかったため、鑑賞の様子からは大半の児童が感じ取っていたようだが、ワークシートに記述していた児童は1名だけであった。

そこで、本時ではこの要素に関してもおもしろさの1つであることに気が付けるようにしたい。